

コンクリートブロック積擁壁補修工の作業手順

制定・改定日 2022.7.14

項 目	内 容	留 意 事 項	
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 規制内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による。 作業別安全チェックシートの活用。 KY活動
取り壊し	<ul style="list-style-type: none"> 既設損傷箇所をバックホーの油圧ブレーカー及びコンプレッサーのブレーカーを併用して取り壊しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 車線側には必ず飛散防止ネットを設置する。 防塵マスク、保護メガネ、耳栓を使用する。 ブレーカーの外れ止めの設置 	
ブロック積	<ul style="list-style-type: none"> 最下段ブロック敷設後、ブロック背面に型枠を設置し裏込め砕石を投入、転圧後、裏込コンクリート(胴込めコンクリート含む)打設を行う。 なお、一回の積み上げ高さは6～7段とし、水抜きパイプを2m/本設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 有資格者による、機械作業を行う。 バイブレーターにて十分締め固めを行う。 その際、生コンの移動、流しは行わない。 	
天端コンクリート打設	<ul style="list-style-type: none"> 既設ブロック積みと、ブロック積み復旧した過疎の天端コンクリートの打設を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> バイブレーターにて十分締め固めを行う。 その際、生コンの移動、流しは行わない。 	
水路壁コンクリート型枠組立	<ul style="list-style-type: none"> 形状、鉄筋かぶりを確認し、型枠を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上下作業にならないようにする。 	
水路壁コンクリートコンクリート打設	<ul style="list-style-type: none"> アジデターよりコンクリートをバケツに受け、クレーンを併用して打設を行う。 打設は棒状バイブレーターにて十分締め固める。 	<ul style="list-style-type: none"> バイブレーターにて十分締め固めを行う。 その際、生コンの移動、流しは行わない。 有資格者による、機械作業を行う。 	
養生・型枠脱型	<ul style="list-style-type: none"> 皮膜養生剤及びシート等で養生を行う。 3日間養生後型枠を脱型・撤去する。 	<ul style="list-style-type: none"> シート養生は、風等による飛散防止処置を必ず行う。 	
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。 ※交通開放の際は、tパック2段積み養生を行うものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 はつりかす、材料かすが無い様に、綺麗に清掃する。 	

作業編成(標準)			機材		資材		安全器具・保護具	
作業指揮者・責任者	1	名	バックホー	溶接機			ヘルメット	保護メガネ
現場監視員	1	名	油圧ブレーカー	発電機			反射(自発光)チョッキ	防塵マスク
作業員	6	名	コンプレッサー	棒状バイブレーター			警笛	耳栓

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.作業に合った保護具を使用する。
- 2.センターライン付近の作業は、十分注意を行う。
- 3.各作業は、有資格者による作業を行う事。
- 4.はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
- 5.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 6.一人作業の禁止